

「平成30年の犯罪情勢について ～自動車盗の情勢～」



前警察庁生活安全局生活安全企画課 課長補佐 深見 幸治

1はじめに

本誌において、犯罪情勢について述べさせて頂くのは昨年に引き続きになります。昨年は刑法犯認知件数を中心として犯罪情勢について記述したところですが、本年は、刑法犯認知件数の治安を計る指標としての位置づけに対する雑感を述べるとともに、59年ぶりに認知件数が1万件を割り込んだ自動車盗にスポットを当てて説明をしていきたいと思います。

なお、本書の意見にわたる部分については、小職の私見であることを申し添えておきます。

2 刑法犯認知件数の推移等

(1) 推移

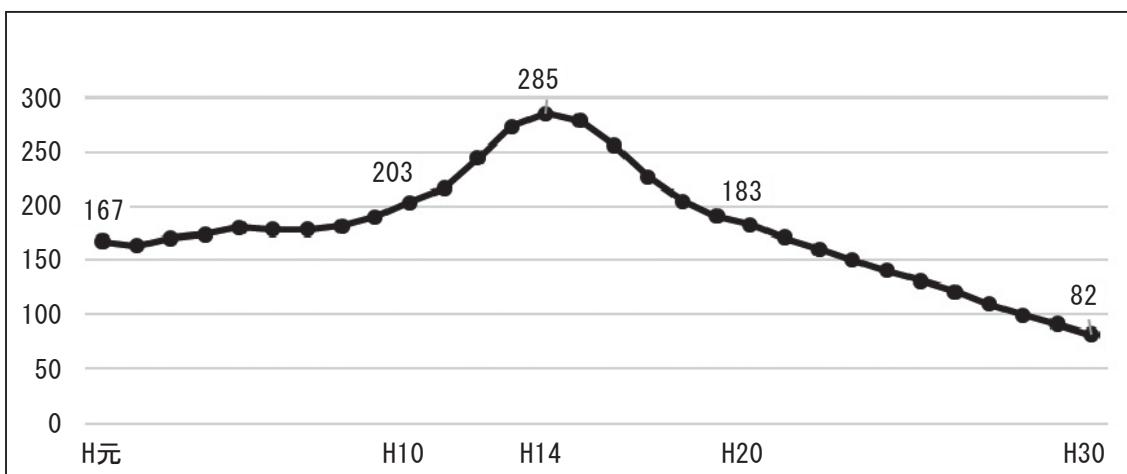
平成30年の刑法犯認知件数は81万7,338件と平成29年から9万7,704件、10.7%の減少となりました。

昭和21年以降、最多の認知件数を記録した平成14年の約285万件から16年連続の減少となり、前年に引き続き戦後最少を更新しました。

被害の類型別で見ると、平成14年から30年までの間に、刑法犯認知件数の7割以上を占める窃盗犯が、179万5,347件の減少と全体の減少数の約88%の寄与率を占めるなど、窃盗犯の減少が刑法犯認知件数の減少に大きな影響を与えたところです。

近年における犯罪情勢の推移等については、平成30年警察白書において特集されているところであります。そちらの方を参照願います。

【図表1】刑法犯認知件数の推移



(2) 犯罪情勢を把握する指標としての刑法犯認知件数

これまで、刑法犯認知件数は、犯罪情勢を知る上で大きな役割を果たしてきたところであります。現在も凶悪犯や重要犯罪といった類型の情勢を見る上では有用な統計です。

しかし、刑法犯認知件数のみで、犯罪情勢の全体像や課題を正確に把握できるかについては、現状では疑問があります。

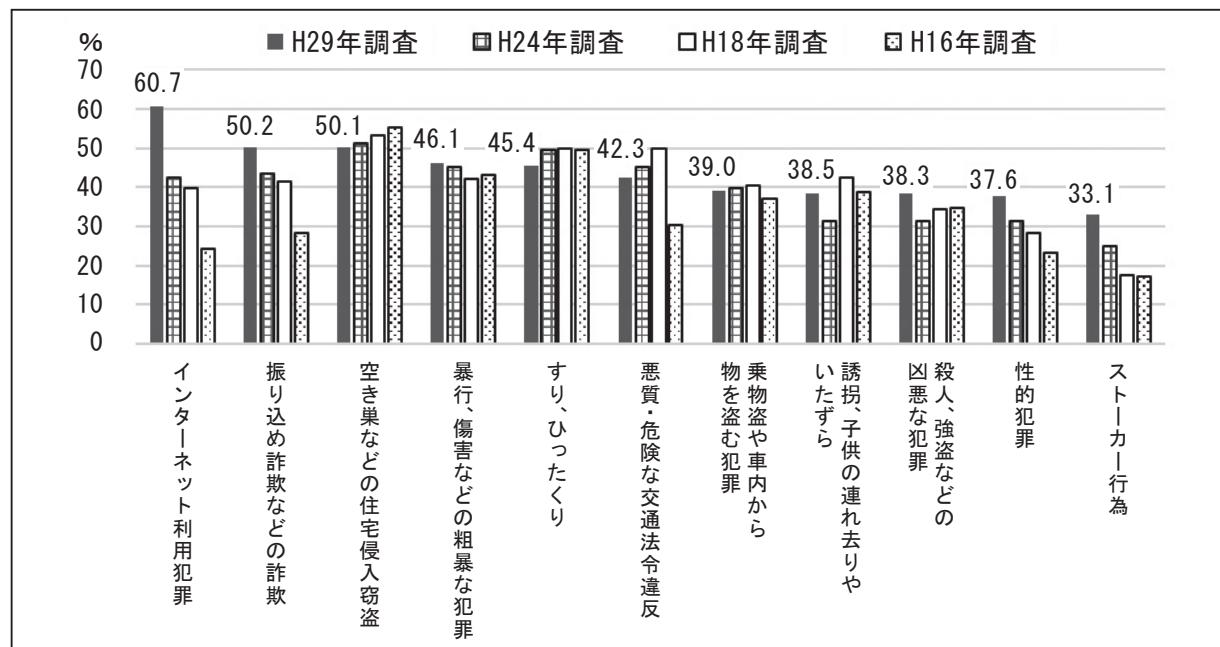
例えば、内閣府において実施している「治安に関する世論調査」の推移を見ると、「不安を感じる犯罪」について、最近の平成29年の調査では、上位3つとして「インターネットを利用した犯罪」、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」が挙げられています。

空き巣などの住宅侵入犯罪については、刑法犯認知件数で推移や傾向について見てとれるものの、「インターネットを利用した犯罪」や「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」については、暗数（犯罪被害について警察が認知していない件数）が相当程度見込まれる、一定の罪名や手口で計れないなどといった事情から、刑法犯認知件数の増減だけでは、必ずしも情勢の変化等を捉えきれないものです。

また、平成30年中の犯罪対策閣僚会議での議題を見てみると「インターネット上の海賊版サイトに対する緊急対策について」、「子供の安全を守るためにの対策について」、「国際テロの現状と対策について」といった治安課題を議題とする検討が行われました。

以上を見ると、我が国の犯罪情勢を見るに当たっては、刑法犯認知件数は依然として重要な指標ではありますが、その他にも警察が保有する統計に限らず様々な指標を用いて総合的な検討を行う必要となっていると感じるところです。

【図表2】治安に関する世論調査～不安に感じる犯罪～



*30%以上の回答があった項目を上記グラフに計上した。

3 自動車盗の情勢

(1) 推移

犯罪情勢を正確に把握するための検討は、今後も多様な取組が行われていくこととして、ここからは、自動車盗を巡る情勢について説明します。

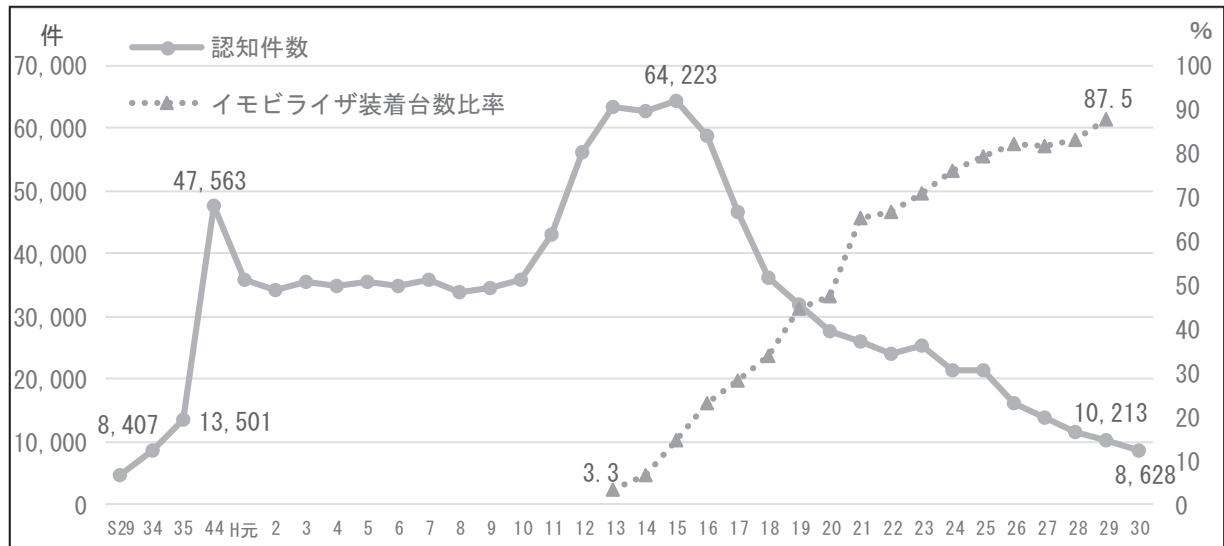
自動車盗の認知件数については、昭和35年に1万件を超えて、昭和の時代は5万件弱まで増加するも、平成10年までは概ね3万5千件前後で推移しました。

その後、街頭犯罪・侵入犯罪の急増と時期を同じくして増加のカーブを描き始め、平成15年に過去最高となる6万4,223件を記録しました。

平成10年からの急激な増加について、自動車盗が国際的な犯罪組織等によって敢行され、盗難自動車が不正輸出されている状況から、関係行政機関・団体の緊密な連携による適切な対策を総合的に推進していく必要性が認められたため、平成13年に関係省庁と関係民間団体からなる自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチームを設置し、自動車の盗難防止と盗難自動車の不正輸出対策を行うこととなりました。

同プロジェクトチームにおいて、盗難自動車の不正輸出防止、盗難防止に係る注意啓発、不正輸出防止対策の推進、イモビライザ搭載車の普及等を進めた結果、認知件数は減少傾向を続け、平成30年は昭和34年以来、59年ぶりに1件を割り込む8,628件の認知となり、ピーク時から約87%もの減少になりました。

【図表3】自動車盜認知件数・自動車のイモビライザ装着生産台数比率の推移



(2) 鍵の状態別自動車盜被害状況

自動車盜の被害時における鍵の状態別の状況として、キーあり、キーなしとも過去10年間で大きく減少しています。

やや、キーなし被害の減少率が鈍く、キーなし被害が認知件数に占める比率は、概ね75%前後で推移しており、4台に3台がキーなしの状態で被害にあります。

また、キーなし被害中盗難防止装置の有無等について見てみると盗難防止装置(イモビライザ)に係る被害について過去5年では微減傾向ですが、過去10年間では増加しており、盗難防止装置(その他)は大きく減少しています。

※「キーあり」とは、当該自動車のエンジンキー（イグニッションキー）が、メインスイッチ（イグニッションスイッチ）に差し込まれていたか、運転席又はその周辺に放置されていたものをいい、「キーなし」とはそれ以外の場合をいう。以下同じ。

【図表4】鍵の状態別自動車盜認知件数 H21-H30 の推移

区分\年次	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
認知件数(件)	25,960	23,970	25,238	21,319	21,529	16,104	13,821	11,655	10,213	8,628
自動車※10万台当たり	34.5	31.9	33.6	28.2	28.3	21.0	17.9	15.1	13.2	11.1
キーあり	7,066	6,396	6,362	5,537	5,149	4,279	3,523	3,125	2,605	2,192
キーなし	18,894	17,574	18,876	15,782	16,380	11,825	10,298	8,530	7,608	6,436
キーなし割合	72.8%	73.3%	74.8%	74.0%	76.1%	73.4%	74.5%	73.2%	74.5%	74.6%

※自動車とは、道路交通法（昭和35法律第105号）に規定する自動車のうち、自動二輪車を除いたものをいい、自動車台数は、一般財団法人自動車検査登録情報協会による各年3月末の登録台数。以下同じ。

【図表5】キーなし被害中盗難防止装置別認知状況 H21-H30 の推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
盗難防止装置（イモビライザー）	1,530	2,078	3,038	2,490	2,240	2,095	2,084	1,874	1,870	1,829
盗難防止装置（その他）	1,016	927	933	795	993	736	645	485	473	384
なし	16,348	14,569	14,905	12,497	13,147	8,994	7,569	6,171	5,265	4,223

(3) 鍵の状態・被害場所別自動車盗被害状況

鍵の状態別に被害場所の状況を見てみると、顕著な傾向を示しているものとして、住宅における被害の状況です。

駐車場や路上といった街頭における被害の減少が顕著であるのに対して、特にキーなし被害の一戸建住宅における被害は過去10年間で微増するなど、住宅における被害の全体に占める割合が上昇傾向にあります。

【図表6】鍵の状態・被害場所別自動車盗認知状況 H21-H30 の推移

区分	年次	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	過去10年間 減少率
キーあり 認知件数(件)		7,066	6,396	6,362	5,537	5,149	4,279	3,523	3,125	2,605	2,192	-69.0%
駐車(輪)場		3,324	2,887	2,965	2,221	1,960	1,562	1,307	1,191	1,015	873	-73.7%
道路上		1,109	907	860	749	673	502	410	334	309	223	-79.9%
住宅		871	871	830	936	917	836	713	710	510	441	-49.4%
一戸建住宅		643	646	588	653	629	591	497	484	382	328	-49.0%
4階建以上共同住宅		71	73	98	100	101	92	82	78	35	39	-45.1%
3階建以下共同住宅		157	152	144	183	187	153	134	148	93	74	-52.9%
その他		1,762	1,731	1,707	1,631	1,599	1,379	1,093	890	771	655	-62.8%
キーなし 認知件数		18,894	17,574	18,876	15,782	16,380	11,825	10,298	8,530	7,608	6,436	-65.9%
駐車(輪)場		12,163	10,378	11,642	8,716	8,621	5,598	4,696	4,307	3,543	2,955	-75.7%
道路上		1,021	821	762	589	542	415	316	210	194	133	-87.0%
住宅		2,041	2,241	2,501	2,754	2,647	2,337	2,384	1,904	1,986	1,932	-5.3%
一戸建住宅		986	1,100	1,312	1,367	1,304	1,246	1,209	1,062	1,068	1,060	7.5%
4階建以上共同住宅		395	410	466	599	573	484	483	328	384	309	-21.8%
3階建以下共同住宅		660	731	723	788	770	607	692	514	534	563	-14.7%
その他		3,669	4,134	3,971	3,723	4,570	3,475	2,902	2,109	1,885	1,416	-61.4%

(4) 車種別被害状況

自動車盗の被害の多くを占める乗用自動車と貨物自動車の被害品数を見てみると、乗用自動車の割合が上昇傾向にあり、貨物自動車が占める割合は低下傾向です。

【図表7】車種別自動車盗被害品数(※)H21-H30 の推移

区分	年次	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
自動車盗被害品数(品)		32,700	30,199	31,955	27,132	27,398	21,014	18,263	16,037	14,055	11,916
うち乗用自動車		15,339	13,263	14,005	11,927	10,335	8,236	6,977	6,193	5,684	5,264
割合		46.9%	43.9%	43.8%	44.0%	37.7%	39.2%	38.2%	38.6%	40.4%	44.2%
うち貨物自動車		7,438	7,780	8,219	6,725	8,103	5,514	4,728	3,788	3,125	2,184
割合		22.7%	25.8%	25.7%	24.8%	29.6%	26.2%	25.9%	23.6%	22.2%	18.3%

※ 被害品は現金を除いて3品まで登録可能であり、被害品数と認知件数は一致しない。

(5) 鍵の状態別被害回復率

鍵の状態別の被害回復率の推移を見てみると、キーあり被害ではわずかに上昇傾向にあり、現在は、概ね50%前後となっています。

一方、キーなし被害では、概ね20%前後で推移しており、キーあり被害とキーなし被害を比較すると、キーなし被害の被害回復率が著しく低い傾向にあります。

【図表8】鍵の状態別被害回復率 H21-H30 の推移

区分	年次	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
キーあり	認知件数(件)	7,066	6,396	6,362	5,537	5,149	4,279	3,523	3,125	2,605	2,192
	還付件数(件)	3,152	2,691	2,510	2,300	2,107	1,813	1,610	1,432	1,325	1,052
	被害回復率	44.6%	42.1%	39.5%	41.5%	40.9%	42.4%	45.7%	45.8%	50.9%	48.0%
キーなし	認知件数	18,894	17,574	18,876	15,782	16,380	11,825	10,298	8,530	7,608	6,436
	還付件数	4,277	3,417	3,324	3,094	2,716	2,636	1,998	1,852	1,576	1,385
	被害回復率	22.6%	19.4%	17.6%	19.6%	16.6%	22.3%	19.4%	21.7%	20.7%	21.5%

(6) 被害額別自動車盗被害状況

被害額別の認知状況を見てみると、300万円以下の被害額の認知件数が減少傾向にある一方、300万円以上の被害額に係る認知件数の割合が上昇傾向にあるなど、1件当たりの被害額の上昇が見てとれます。

【図表9】被害額別自動車盗認知件数H21-H30の推移

年次 区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
認知件数※(件)	24,686	22,610	23,812	20,036	19,772	14,838	12,481	10,668	9,356	7,955
200万円未満(件)	19,475	17,123	17,984	14,885	14,604	11,125	9,312	7,991	6,841	5,626
割合	78.9%	75.7%	75.5%	74.3%	73.9%	75.0%	74.6%	74.9%	73.1%	70.7%
200万円～300万円未満	2,667	2,801	3,118	2,708	2,572	1,777	1,468	1,200	989	794
割合	10.8%	12.4%	13.1%	13.5%	13.0%	12.0%	11.8%	11.2%	10.6%	10.0%
300万円以上	2,544	2,686	2,710	2,443	2,596	1,936	1,701	1,477	1,526	1,535
割合	10.3%	11.9%	11.4%	12.2%	13.1%	13.0%	13.6%	13.8%	16.3%	19.3%

※ 認知件数は、被害なし又は被害額の特定が困難なものを除く。

4 自動車盗の現状に関する考察

前記3で見たとおり、自動車盗については、過去15年間で大幅な減少を見ているところですが、各種統計から見えてくるものを挙げてみると

- キーなし被害とキーあり被害の認知件数を比較すると、キーなし被害の減少がやや鈍く、キーなし被害が全体の約4分の3を占めている。
- キーなし被害のうちイモビライザ搭載車の被害は、過去10年間で増減を繰り返しながらも約20%増加している。ただし、イモビライザ搭載車の普及等からイモビライザ搭載車全体に占める被害件数の割合は大きく減少していると思われる。
- キーなし被害のうちイモビライザ以外の盗難防止装置搭載車の被害は、過去10年間で約62%減少している。
- 街頭における被害が著しく減少し、特に一戸建住宅におけるキーなし被害が増加している。ただし、認知件数の最多は駐車(輪)場における被害である。
- 認知件数における乗用自動車の被害が占める割合が上昇傾向にある。
- キーなし被害の被害回復率が、キーあり被害より著しく低い。
- 被害にあう自動車の1台当たりの被害額が増額傾向にある。

といった点が見られます。

必ずしも各特徴がクロスするとは限らないものの、上記の特徴から、駐車場や一戸建住宅に駐車しているキーなしの状態の比較的高額の乗用自動車が被害の対象となるケースが増加していると推察され、犯人は、道路上などの公共空間において盗みやすい状態にある自動車を物色するのではなく、あらかじめ盗みの対象としている車種の自動車に狙いをつけて犯行に及んでいると考察されます。

また、キーなし被害の被害回復率の低さは、盗難自動車の海外への不正輸出等による組織的な処分が疑われます。こうした特徴は、検挙事例等から判明している、高級乗用車や人気乗用車等を窃取対象とした窃盗グループがイモビライザ等の電子的な盗防技術を無効化するなどの手口により窃取した自動車について、ヤード等を経由して海外に不正輸出している状況と符号するとも考えられます。

一方で、イモビライザ搭載車の普及は、自動車の盗防性能を著しく進化させ、通称「直結」といわれた従来型の手口が顕著に減少していることが見てとれ、自動車の盗防性能が飛躍的に高まっていると考察されます。

5 今後の対策

自動車盗の対策については、警察として取締りの強化、関係省庁への情報提供のみならず、前述の「自動車盗難等の防止に関する官民合同会議プロジェクトチーム」において定めている行動計画等により、関係機関・団体等が情勢について正しい理解と共有を深めた上で、官民が一体となって国民に対する自主防犯に対する注意啓発、自動車盗防性能の高度化の促進、盗難自動車の不正輸出等の各種総合対策を推進してまいります。

（尚、深見様は3月に以下に異動となりました。
）
（兵庫県警察本部生活安全部生活安全企画課）